

# 「企業理念」の実現に向けた目標の体系／現場起点の考動

「企業理念」「安全憲章」、「中期経営計画」「安全基本計画」、そして「事業運営方針」「支社長方針(支社等考動計画)」「現場長方針(箇所目標)」「個人目標」といった各目標・計画が一貫して機能することで、実効性の高い具体的な「考動」が集積し、「企業理念」を実現、お客様・地域・社会から信頼される企業グループとなることができると考えています。

## 目標の体系

### 経営の3本柱

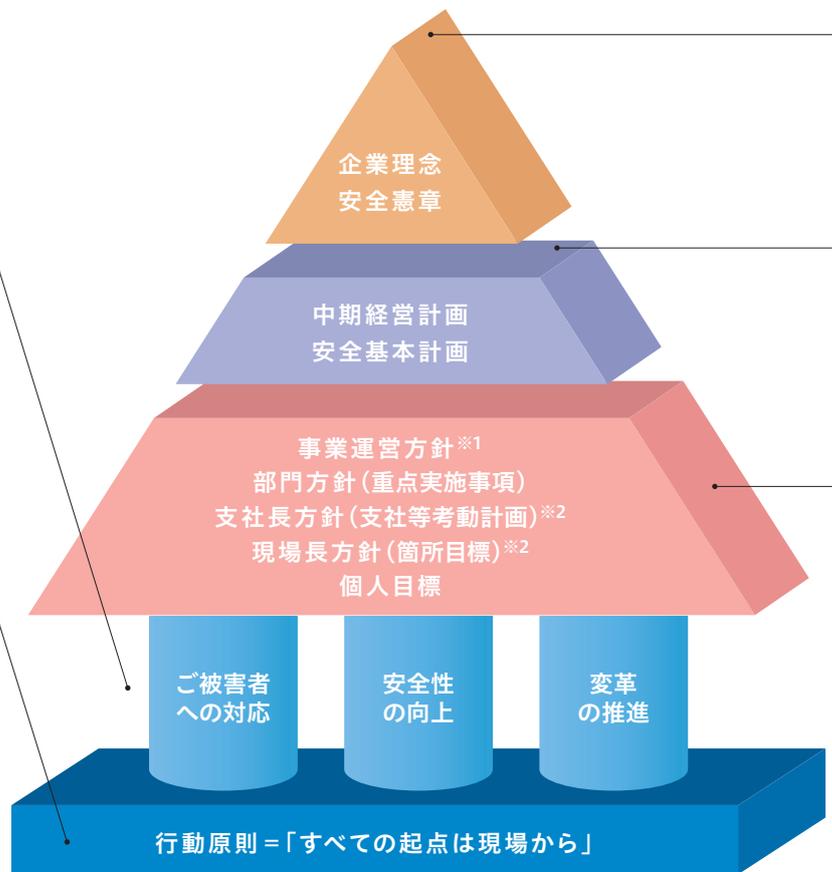
経営の3本柱「被害に遭われた方々に誠心誠意と受け止めていただけるような取り組み」「安全性向上に向けた取り組み」「変革の推進」は、当社が事業を遂行していく基盤です。今回の中期経営計画の見直しにおいても、その位置づけは変わるものではなく、グループを挙げてこれらを強力に推進していきます。

### 現場起点の考動 ～すべての起点は現場から～

安全やCSを向上させるために、現場第一線にある課題を共有し、それぞれの立場の社員が自律的に、かつ連携して取り組むことが、「現場起点の考動」です。

社員一人ひとりの力を結集することが安全やCSを向上させる原動力となること、コスト削減・技術開発といった課題解決の糸口が現場にこそ存在していることを再確認し、「すべての起点は現場から」を行動原則に掲げ、現場の課題は重要な経営課題であるとの認識のもと、今まで以上に正面から取り組んでいきます。

※「現場」:安全やサービスをはじめとする価値が現実  
に生み出されている場所や場面(グループ会社・協力  
会社を含む)



※1 収支計画、設備投資計画等を含みます。  
※2 名称は支社、現場ごとに異なる場合があります。

## 現場起点の「考動」の広がり

安全やCS向上に向けた一人ひとりの努力の積み重ねが企業理念の実現につながるとの認識のもと、「現場」を起点とした考動が広がっています。

現場起点の「考動」には、一人ひとりの社員・現場長等の気づきや情報発信、それぞれの職場での自律的な対策に加え、他職場との連携や支社・本社の迅速なサポート等が不可欠です。ここでは、こうした個々の社員や組織がつながり、安全・CSの向上に結びついた「考動」事例を紹介いたします。

→現場起点の「考動」事例は、本報告書で数多く紹介しています。他ページもあわせてご覧下さい。

### 事例：ホームの隙間対策(湖西線近江高島駅)

これまで最長8両編成の停車であった湖西線近江高島駅では、平成23年3月のダイヤ改正で、新たに12両編成の列車が停車するようになり、一部の場所で列車とホームの隙間が大きくなっていました。

駅社員は、隙間のリスクに気づき駅長へ報告しました。そのリスクは、近隣病院の増床に伴う高齢者のご利用増加や地域からの期待の高まりなど、現場の実情を踏まえた課題として他職場や支社と共有され、それぞれの立場で自律的かつ連携して対策が実施されたことで、スピーディーに解決が図られました。

## 中期経営計画見直し

平成22年10月、「JR西日本グループ中期経営計画2008-2012」（平成20年5月策定）の見直しを行い、より長期的な持続可能性に経営の力点を置きつつ、あらためて中長期的な経営の方向性の明確化と具体化を図ることとしました。

このなかで、安心と信頼をベースとした持続的発展を図りつつ、「事業活動を通じて西日本地域の活性化に貢献」することをミッションとして定め、「安全マネジメントにおいて卓越し、お客様・

地域・社会から信頼される」企業グループを目指すことを経営ビジョンとして決めました。また、このビジョンの達成に向け、従前掲げている経営の3本柱「被害に遭われた方々に誠心誠意と受け止めていただけるような取り組み」「安全性向上に向けた取り組み」「変革の推進」を堅持しつつ、「地域との共生」「技術による変革」「現場起点の考動」という新たな戦略を明確化しました。

→中期経営計画見直しについて、詳しくは [http://www.westjr.co.jp/company/ir/pdf/20101028\\_01.pdf](http://www.westjr.co.jp/company/ir/pdf/20101028_01.pdf) をご参照下さい。また、P05座談会も、あわせてご覧下さい。

一貫して機能することが重要

### 普遍的な目標：企業理念、安全憲章

「企業理念」は、当社の決意表明であるとともに、社内はもちろん、お客様、株主をはじめとする関係者の方々に対する宣言でもあります。普遍的な目標である「企業理念」に掲げた「あるべき姿」を実現していくことが、当社におけるCSRの遂行にほかならないとの考え方に立ち、社員、役員、そして総体である会社が一体となって、自ら考え、行動してきた結果を、「企業考動報告書（JR西日本CSRレポート）」で報告しています。また、「安全憲章」は、「企業理念」第一項で宣言している基本的価値観を共有した上での、日々の行動指針を示すものとして制定しました。福知山線列車事故を永遠に忘れることなく、二度と再び悲惨な事故を起こさないとの決意を示しています。

### 中長期的な目標：中期経営計画、安全基本計画

「中期経営計画」は、「企業理念」を実現するため、中長期的に、会社の向かっている方向を明確化し、具体的な方針や目標をお客様や株主、地域社会等すべてのステークホルダーの皆様にお示しするものです。「中期経営計画」の方向性を社員一人ひとりが理解し共感した上で、お客様・地域・社会から信頼される企業となるための自発的な「考動」を積み重ねることが、目標達成につながります。また、「安全基本計画」では、「安全を最優先する企業風土の構築」を目指す道のりのなかで最優先・最重要に取り組むべきこととして『お客様の死傷事故ゼロ、社員の重大労災ゼロへ向けた体制の構築』を到達目標に掲げています。これを実現するために、リスクを事前に洗い出し、必要な手立てを講じるための効果的な仕組みとしてリスクアセスメントを導入するとともに、社員の安全意識向上に取り組んでいます。

### 単年度の目標：

#### 事業運営方針

「事業運営方針」は、社員向け、「中期経営計画」の達成のための、より具体的な単年度の取り組みや、重点事項、到達目標を示したものです。足元の環境の変化や進捗状況に対応し、向かっている方向や施策の適切性等を確認しながら取り組みを推進していきます。

#### 部門方針（重点実施事項）

部門方針（重点実施事項）は、本社内各部室における定常業務を含む取り組み課題について、網羅的に示したものです。

#### 支社長方針（支社等考動計画）

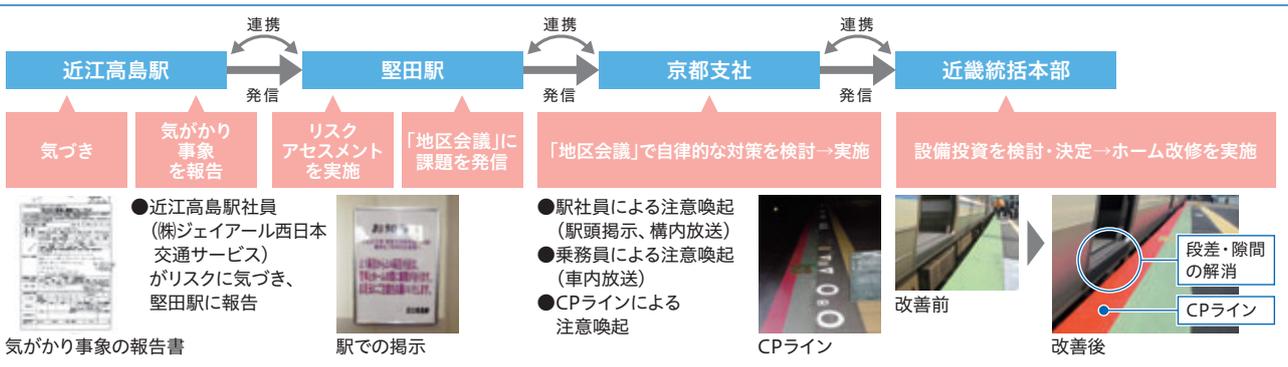
「支社長方針（支社等考動計画）」は、事業運営方針等に基づき各支社特有の使命役割や現状認識に応じて策定する支社の計画です。安全・CS・人材育成をはじめ、支社における課題の解決について、具体的な取り組みを推進していきます。

#### 現場長方針（箇所目標）

「支社長方針（支社等考動計画）」等に基づき、個々の職場単位の課題に対応するため、単年度の目標である「現場長方針（箇所目標）」を策定しています。「現場長方針（箇所目標）」は会社の方針に則った、社員一人ひとりの日々の業務に関連したものであり、「考動」する上での基本となります。

#### 個人目標

「現場長方針（箇所目標）」を踏まえ、一人ひとりの社員が自らのやるべきことを考えて、目標を定めています。「個人目標」に基づいた「考動」が、「企業理念」「安全憲章」「中期経営計画」「安全基本計画」実現の礎となります。



### 用語解説

●CPライン：「CP」とは「Color Psychology」の略で、色彩心理の意味。列車に近いところを「赤」で表示し、安全な場所へお客様を誘導することが目的です。  
 ●地区会議：エリアにより、「線区会議」「地区連絡会」等呼称は異なりますが、各地で、地区や線区単位で駅、乗務員、車両、工務等の系統の異なる複数の職場が集まり、協力して課題解決を図る取り組みが盛んになっています。